

令和7年度 母子保健指導者養成研修

妊産婦のメンタルヘルスに関する研修

医療機関と自治体との連携

—大阪府の取り組みから—



地方独立行政大阪府立病院機構
大阪母子医療センター 子どものこころの診療科
大阪府妊産婦こころネット

平 山 哲



妊産婦メンタルヘルスの支援で

- 若年妊娠
 - パートナーは不明
 - 両親との生活
- 妊娠したかとも思い、検査、相談できず「にんしんSOS」に
- 妊娠後期まで受診せず
- 両親か気づき病院受診、出産に悩む
- どこに相談したらいいのか？
 - 自治体窓口相談、家族で意見の相違、当人は、、、、
- 出産し、産後メンタル不調、養育不全が

- 自治体としての対応の難しさは、時期により様々で

本研修の内容(目次)

自治体での妊産婦メンタルヘルス支援

自治体と医療機関との連携の仕組み

事例を通して

多機関・多職種連携にむけて

妊産婦メンタルヘルスの重要性

- 妊娠・出産は女性のライフイベントの中でも特に精神的負担が大きく、メンタルヘルス不調のリスクが高まる時期
- 適切な支援体制の構築が母子の健康と家族機能の安定に不可欠

妊娠・出産期の精神的脆弱性

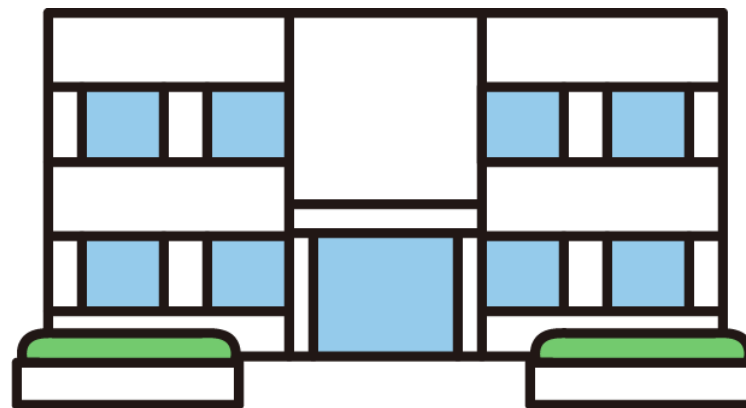
- 女性の心身に大きな変化をもたらす
- ホルモンバランスの急激な変動
- 精神的脆弱性が顕在化しやすい時期

産後うつ病の影響と早期支援

- 母体の健康に深刻な影響
- 児の発育への悪影響
- 家族全体の福祉にも関わる問題

わかっているからこそ
支援に取り組み、困難さを感じる

自治体での支援



病院への相談とは別に、
地域の自治体窓口での相談も
一つのスタートとなります

本研修の内容(目次)

自治体での妊産婦メンタルヘルス支援

自治体と医療機関との連携の仕組み

事例を通して

多機関・多職種連携にむけて



通常の支援で

支援をするために知っておくこと

- 妊産婦のメンタルヘルス支援のために
 - 身体機能の変化
 - ホルモンバランスの変化
 - 体の見た目の変化
 - 家族機能の変化
 - パートナーとの関係性
 - 両親等とのつながり
 - 生まれてきた子どもの養育
 - 精神面の変化
 - 妊娠に至った思い
 - 妊娠経過の予期せぬ経験
 - 元々の気質、性格、疾患による影響
 - 妊娠による、メンタルヘルスの変化

- 相談内容により支援スタートの方向性が変わる！
- どう進めるのか
- 機関につなげるのか
- 医療が必要なのか
- 自分たちで賄えるのか



妊産婦メンタルヘルス ハイリスク妊産婦支援をすすめる



医療機関との
連携の推進

本研修の内容(目次)

自治体での妊産婦メンタルヘルス支援

自治体と医療機関との連携の仕組み

事例を通して

多機関・多職種連携にむけて



機関連携へ

医療機関が取り組む支援窓口



大阪母子医療センターの役割

- 大阪府からの委託による各窓口の運営
- 専門的知見を活かした相談対応
- 医療と福祉をつなぐ中核機関
- 継続的な支援体制の維持・発展

にんしんSOS(2011年度～)

- 全国初の予期せぬ妊娠・出産に悩む妊婦への公的相談窓口
- 電話やメールによる相談対応
- 社会的ハイリスク妊婦への支援

妊産婦こころの相談センター (2016年度～)

- 妊産婦及び家族からの直接相談機関
- メンタルヘルスに特化した相談支援
- 専門的な情報提供と適切な機関への紹介
- 継続的な支援体制の構築

妊産婦こころネット(2024年度～)

- 産科・精神科医療機関等支援者向け窓口
- 機関間の情報共有と連携調整
- 困難事例への多職種による対応支援
- 支援者向け研修会の開催

「にんしんSOS」の概要

- 2011年度に大阪府が全国で初めて開設した、予期せぬ妊娠・出産に悩む妊婦のための公的相談窓口です。
- 社会的に孤立しがちな妊婦に対して、早期から適切な支援につなげる重要な役割を果たしています。



社会的ハイリスク妊婦への支援

- 若年妊婦や経済的困窮者への支援
- 家族の理解が得られない妊婦の相談

電話・メールによる相談対応体制

- 匿名での相談が可能
- 24時間対応のメール相談
- 専門スタッフによる適切な情報提供と支援

大阪府妊産婦こころの相談センター

2016年度に設置された大阪府妊産婦こころの相談センターは、妊産婦本人や家族からの直接相談に応じる体制として整備され、メンタルヘルスの専門的支援窓口として機能している。



妊産婦及び家族からの直接相談機関

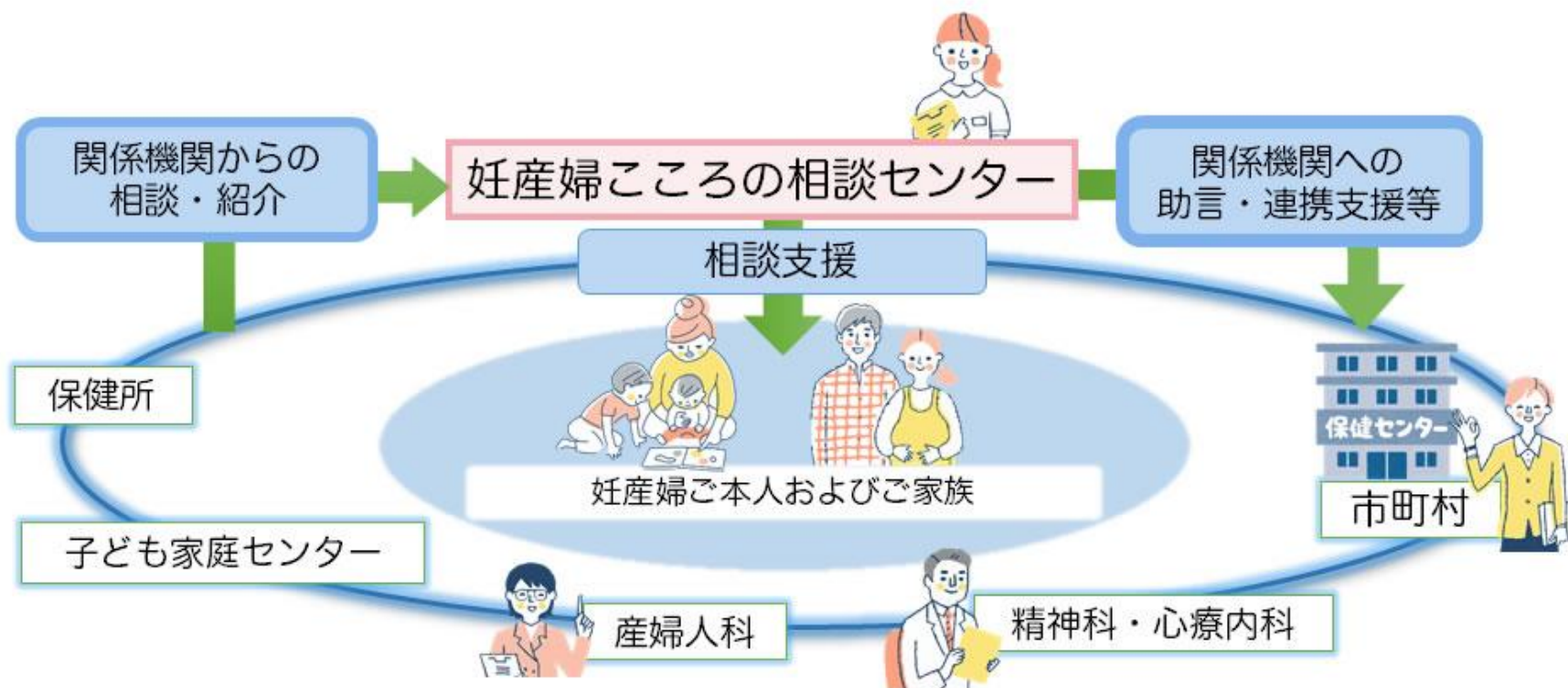
妊産婦及び家族が抱える精神的不調や悩みに対して、専門的な相談支援を提供している。

メンタルヘルスに特化した相談支援

- 妊娠・出産に伴う精神的不調への対応
- 産後うつなどの早期発見
- 適切な医療・支援機関への連携

産前産後のメンタルヘルス支援

- 自殺対策の一環からスタートした取り組み
- 妊産婦及び家族からの直接相談



大阪府妊産婦こころネット設立へ

大阪府妊産婦こころの相談センターの活動を通じて、当事者からの直接相談だけでは対応が難しい事例が多く見られ、より包括的な支援体制の構築が求められていた。



当事者による直接相談の限界

- 精神症状の悪化により高次医療機関での治療が必要なケース
- 産科と精神科の双方での入院治療への受け入れ調整が必要な事例
- 地域機関や支援機関との連携不足
- 産科医療機関と精神科医療機関の連携への課題

広域かつ組織的なネットワークの必要性

- 市町村・医療機関・関係機関間の連携を円滑化する必要性
- 支援機関向けに機関連携コーディネートを担う枠組みの整備
- 妊産婦メンタルヘルス支援の広域的な体制構築



大阪府妊産婦こころネット



- メンタルヘルス不調に対する支援が必要な妊産婦を地域医療機関等につなぐためのコーディネート
- 産科医療機関、精神医療機関をはじめ、妊産婦を支援している関係機関からの支援や受診に関する相談対応
- 産科・精神科医療提供体制強化のためのネットワーク構築・連携にかかる会議および研修会の開催



大阪府妊産婦こころネット

大阪府妊産婦こころネットでは、大阪母子医療センター内に妊産婦のメンタルヘルスを支援する方への相談窓口を開設しました。

相談時間 ▶ 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始休み) TEL ▶ 0725-55-2632

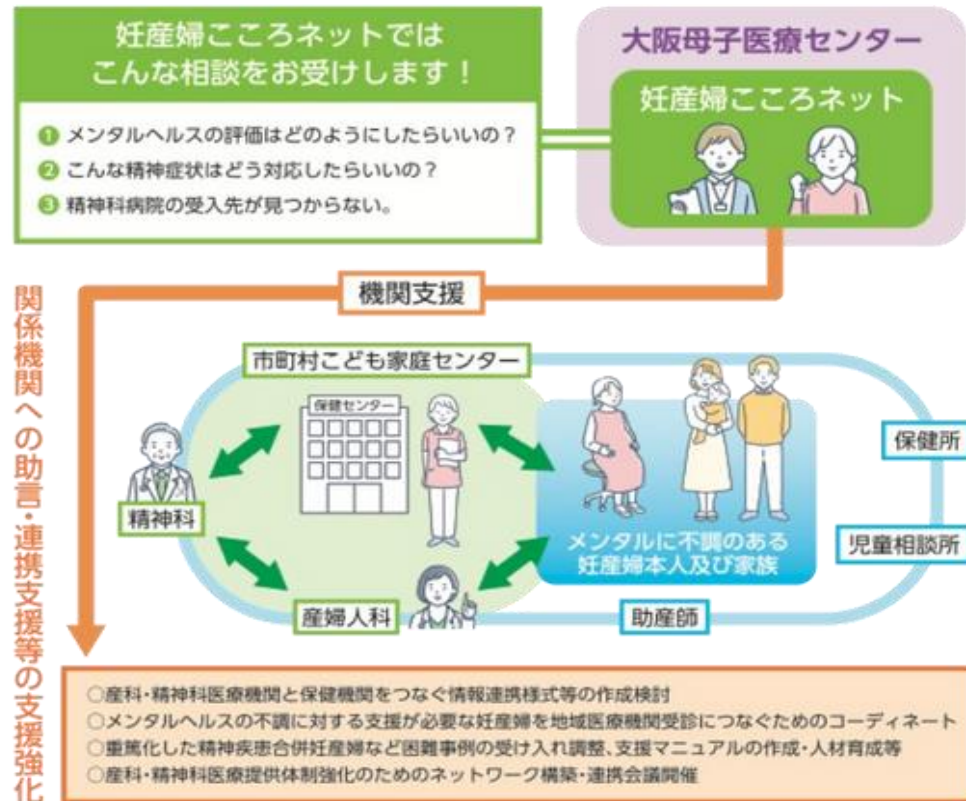
E-mail ▶ cocoronet@wch.opho.jp

メンタルヘル스에不調をきたす妊産婦が安心して子どもを産むことができる医療機関の整備に向けてオール大阪で取り組みます

支援関係者向けの相談窓口

機関相談窓口

- ・ 受付時間：9時～17時
月～金（祝日年末年始除く）
- ・ 相談対象：市町村や医療機関等妊産婦のメンタルヘルスを支援する方
- ・ 相談内容：妊産婦のメンタルヘルスに関する事項
- ・ 相談方法：電話およびメール



重点的な活動

妊産婦が精神的な不調や疾患を抱えているものの適切な機関へ繋がっていない場合、こころネットが窓口となって関係機関と連絡・調整を行い、望まれる医療や支援につなぐ役割を担っている。



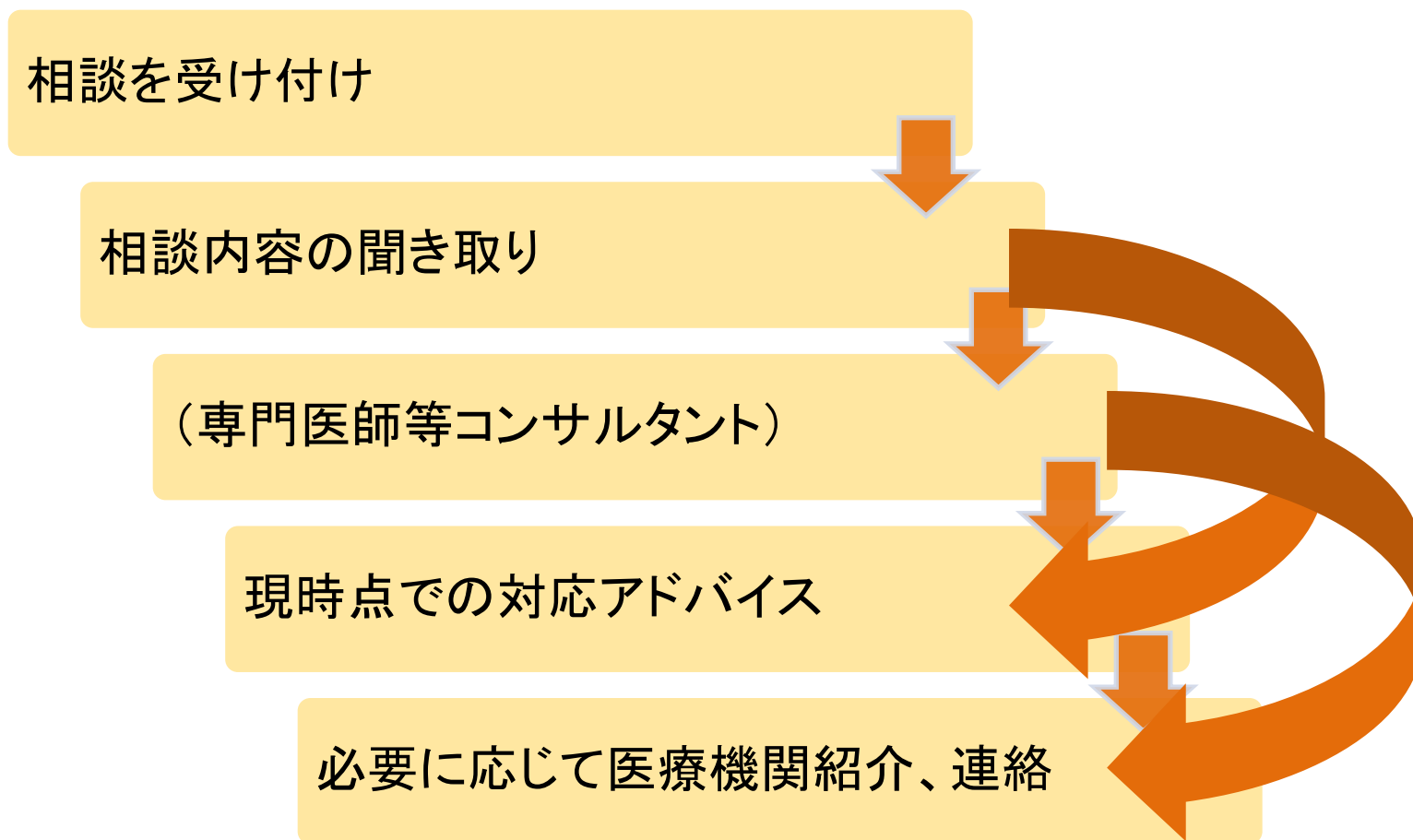
医療・支援機関へのコーディネート

産科と精神科の両方の診療や治療を必要とするケースや、症状の急変や悪化により高次医療機関への受診が必要な場合の調整を行う。

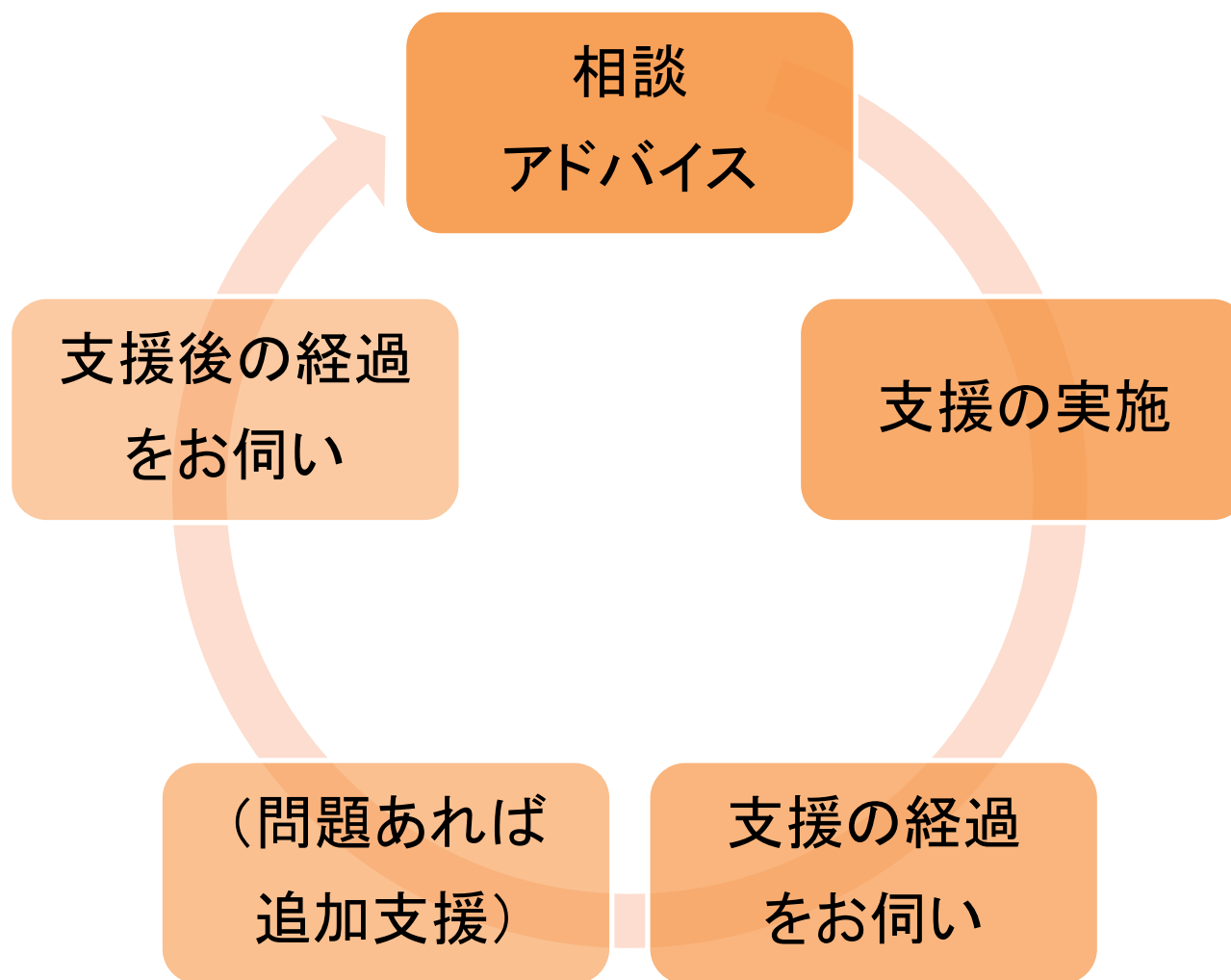
専門的助言と困難事例への対応支援

- 多職種専門家による妊産婦の精神症状や支援方法に関する相談対応
- 困難事例に対する事例検討やケース会議の開催
- 支援団体への精神科医の派遣

支援者からの相談の流れ



相談後には



より良い支援になるよう、当方も情報収集を重ねています

本研修の内容(目次)

自治体での妊産婦メンタルヘルス支援

自治体と医療機関との連携の仕組み

事例を通して

多機関・多職種連携にむけて



事例を通して

※実際の事例を、意図を損ねない程度にモディファイしています



事例1

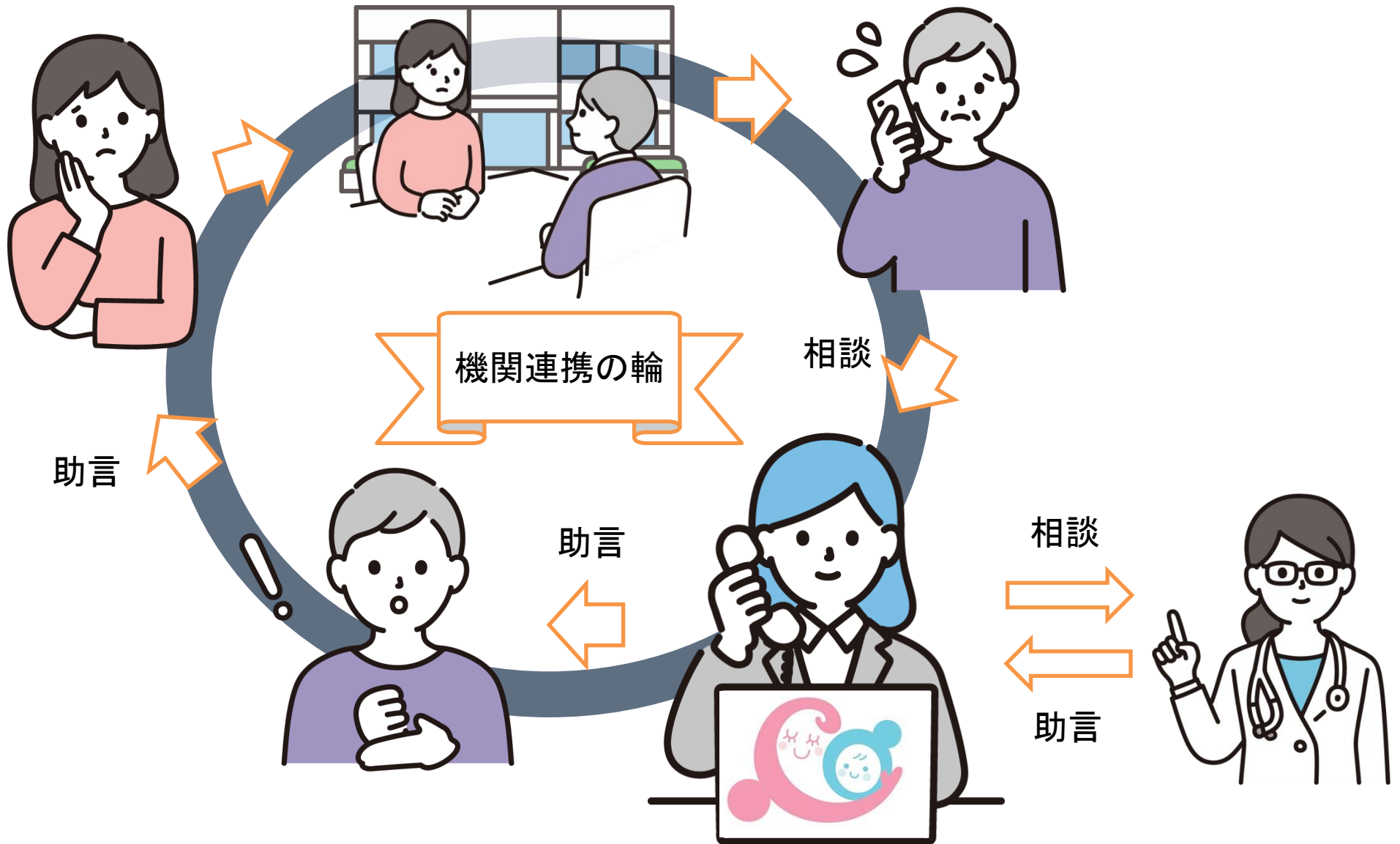
保健センターからの相談



事例 1 (配布用資料)

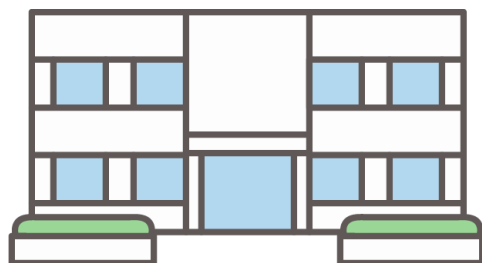
- 妊婦のメンタル不調対応の相談に対応する方法の相談
- 困っているケースのどこに注意を払い、どのように考えて対応したら良いか
- まずの対応を進めた次に、何をすればいいか
- 具体的なアドバイスとして
 - 今はメンタル不調の内容の聞き取りをする
 - 家族からも聞き取りをして、本人家族の訴えを「傾聴する」
 - そして家族へ近隣の精神科への受診勧奨をすすめた

支援の流れ





事例2 市役所からの相談



事例 2 (配布用資料)

- 総合病院小児科の医師からの相談が役所母子担当へ相談
- 病院の医師(小児科医)から、産婦産後養育上の問題があるとの相談を受けた。
- 産婦は精神疾患が疑われ、役所が何かできないかと言う。
- 小児科医師へどのような返事をしたら良いか困っている
- 具体的なアドバイスとして
 - 小児科医師に、産婦のメンタル不調と思われる内容を詳細に聞き取ること
 - 確かに精神疾患が疑われるのであれば、精神医療へつなぐこと
 - 判断が難しいようであればあらためて連絡をください、と伝えた

支援の流れ



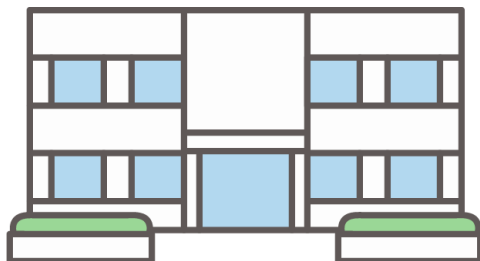
多機関連携のつながり





事例3

町役場からの相談



事例 3 (配布資料)

- 自治体母子担当の職員からの相談
- 所属する部署で、妊産婦への対応を行なっている職員によって対応の考え方に違いがある
- 現在妊婦に対応している職員が疲弊している
- 妊婦にアドバイスをして医療をすすめたが受診をしない
- その時に私はどうしたらいいのか
- 具体的なアドバイスとして
 - 院内精神科医師が電話で助言をした

支援の流れ





これからの支援を
よりよくするために

地域医療機関との 顔の見える関係作り

• 事例検討会

- 実施事務局は大阪府妊産婦こころネット
- 大阪府下希望のある市町村単位で事例検討会を開催
 - 2024年度は 1 自治体で実施
 - 2025年度は 3 自治体実施、 2 自治体検討中
- 参加者は、市町村母子保健精神保健担当、及び支援者
- SVとして、当事者が受診している・もしくは地域の産婦人科医療機関及び精神科医療機関の医師
- 大阪府妊産婦こころネット所属の産婦人科医及び精神科医、コーディネーターも助言者として参加
- 事例は地域で対応に苦慮している・苦慮したケースで、地域の実情に合わせて地域に選択をお願いしている。

事例を通じた学び



- 地域で事例検討会
- SVとして地域にある産科医及び精神科医が参加
- こころネットからも産科医と精神科医
- グループワーク
- 事例ごとの助言へ

令和6年度地域事例検討会より

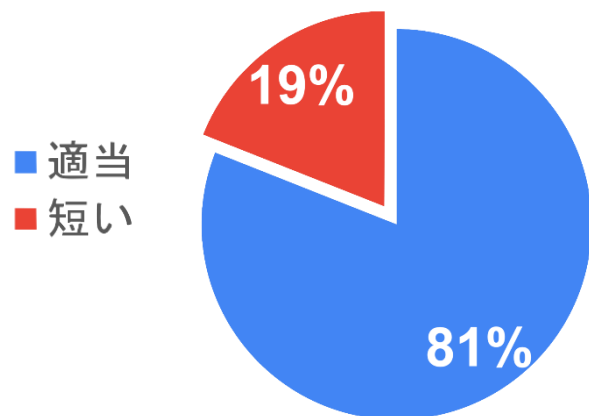
事例検討会から

2ケースを検討

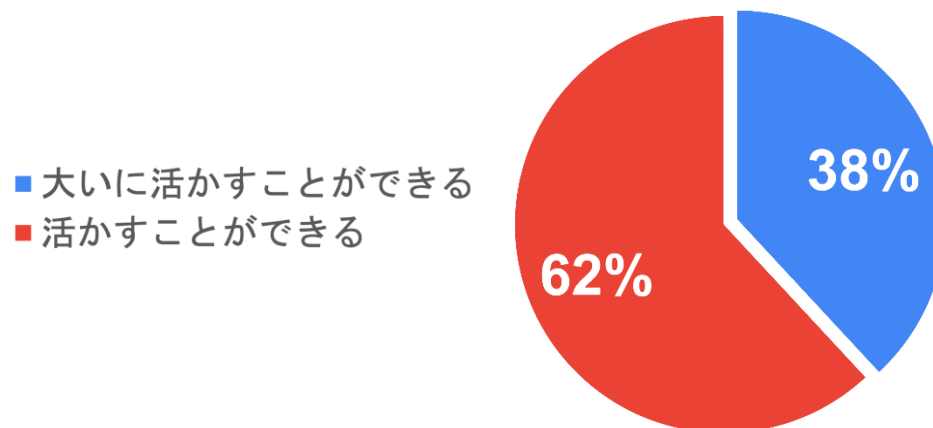
- 事例1 妊婦
 - 報告15分、グループワーク20分、発表15分
 - 地域産科医、精神科医からのコメント等 15分
- 事例2 産婦
 - 報告5分、質疑応答15分
 - 地域産科医、精神科医からのコメント等 20分

参加者アンケート結果

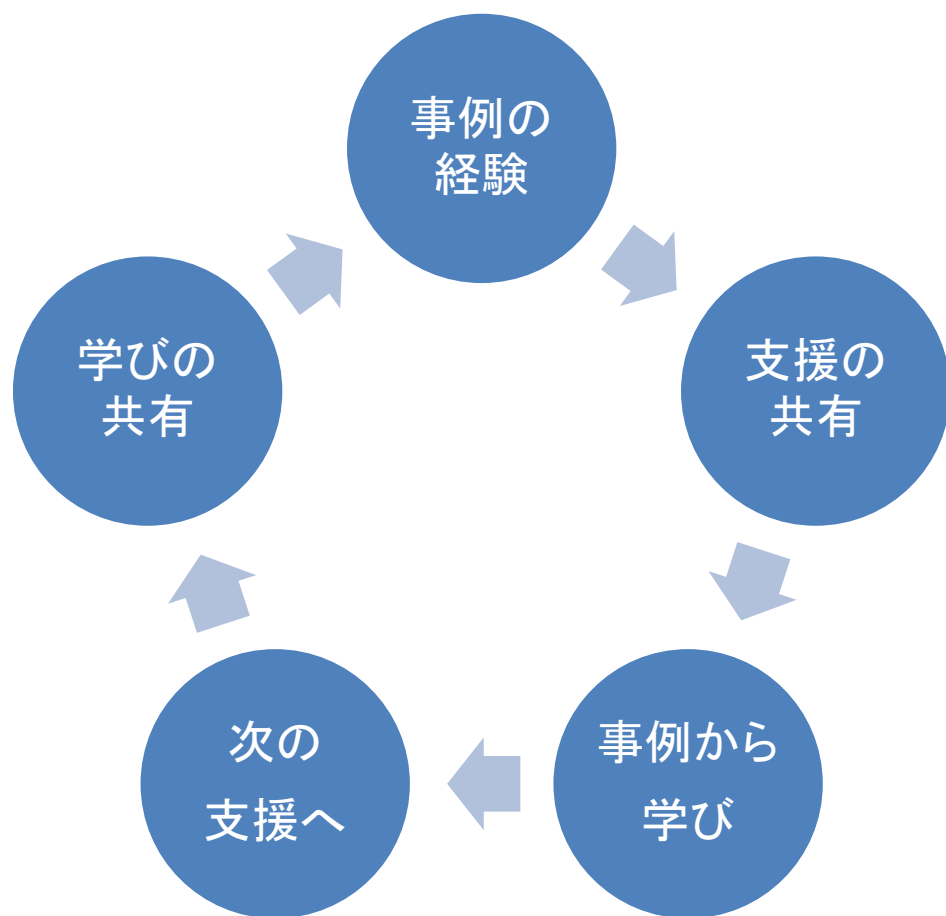
実施時間について



検討会の経験を今後活かせるか



事例検討会を通じて



- 事例の共通認識
- 支援の共通認識
- 支援の共通言語化

- 経験によらない支援の学び
- 学びから得られた気付き
- 共通知識として共有

本研修の内容(目次)

自治体での妊産婦メンタルヘルス支援

自治体と医療機関との連携の仕組み

事例を通して

多機関・多職種連携にむけて



連携を支える

大阪府妊産婦こころネット 連携会議

事業計画

- 地域関係支援機関
連携強化
- 専門的サポート提供
- 多機関支援の
ワンストップセンター

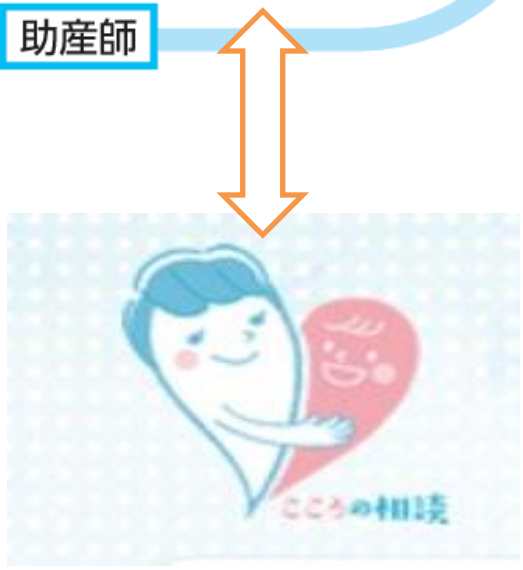
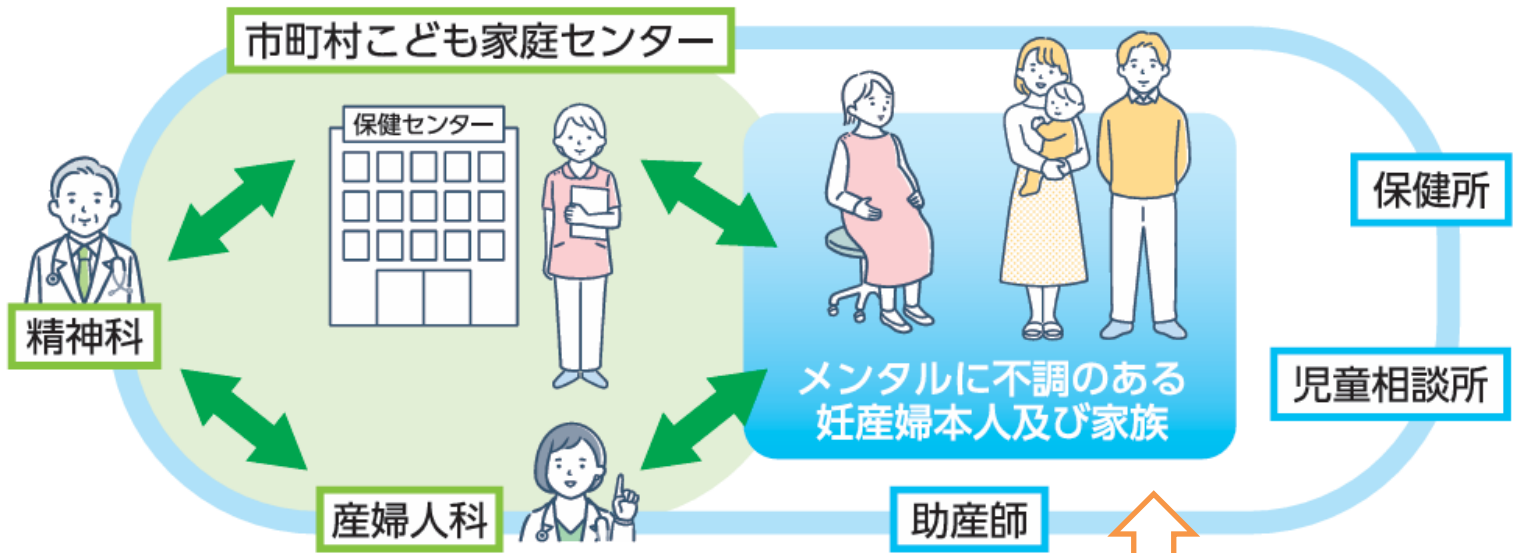
会員構成

- 大阪産婦人科医会
- 大阪精神科病院協会
- 大阪精神科診療所協会
- 大阪府助産師会
- 大阪府 保健所
- 大阪府 児童相談所
- 大阪府 母子保健
- 大阪府 精神保健
- 市町村

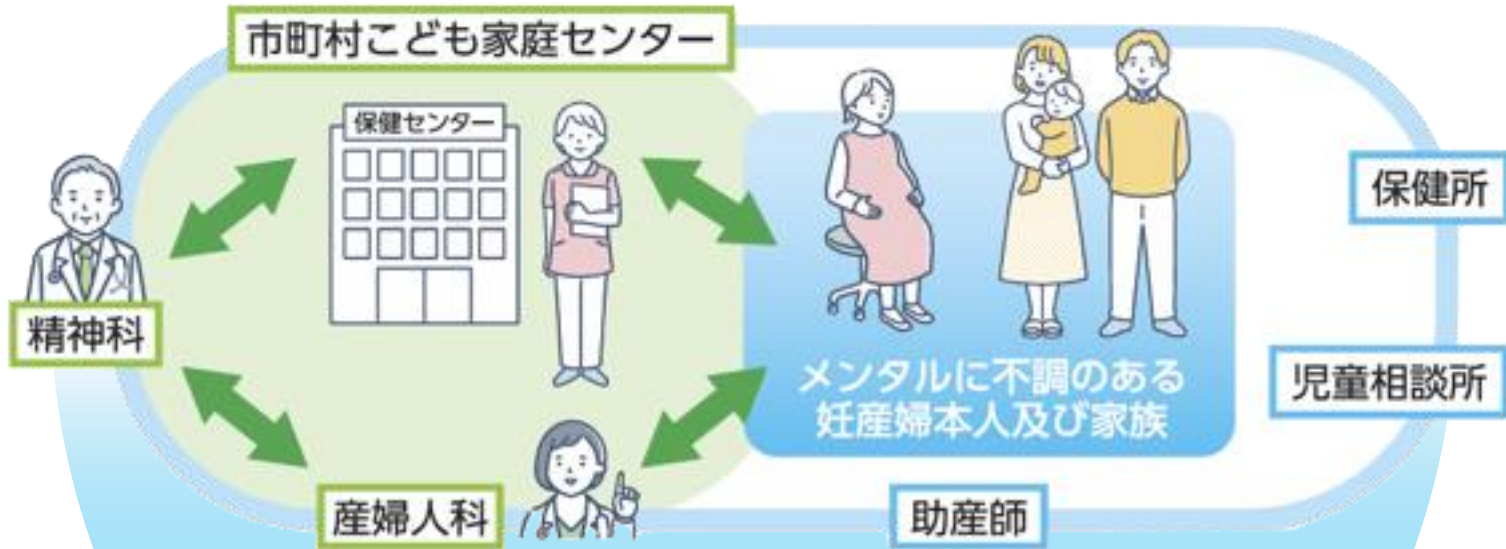
活動内容

- 妊産婦メンタルヘルス
に関する情報共有
- 活動内容の周知
- 活動方針の共有
- 連携体制の構築推進
- 支援者向け研修企画
- 府下医療機関調査
- 府下診療機能調査

大阪府妊産婦こころネット連携会議の設置・運営
地域産科及び精神科の診療体制の可視化および情報収集



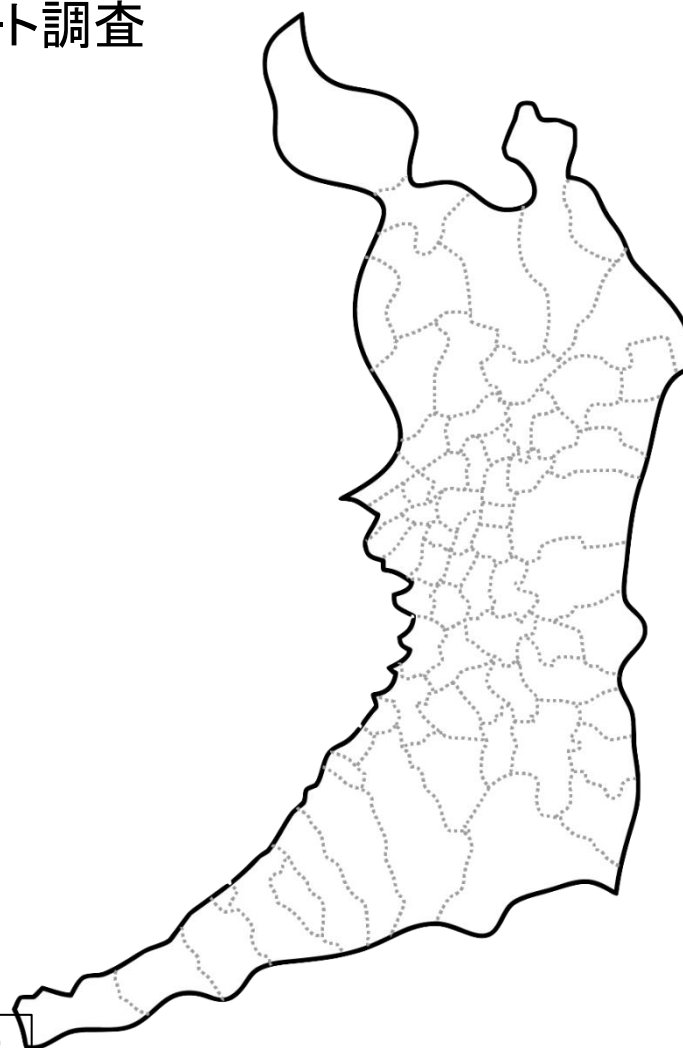
妊産婦こころの相談センター



大阪府妊産婦こころネット

医療機能調査(医療機関リスト)

- 大阪府下全産科・精神科医療機関にアンケート調査
- 妊産婦メンタルヘルス支援において
 - 産科医療機関では
 - 精神疾患ありでの妊婦健診は可能か
 - 精神症状による診療受け入れ可否
 - 精神疾患発症時の対応
 - 精神科医療機関では
 - 妊産婦の診療は可能か
 - 診療までの期間
 - 入院可否
- 産婦人科 169施設より回答
- 精神科 228施設より回答

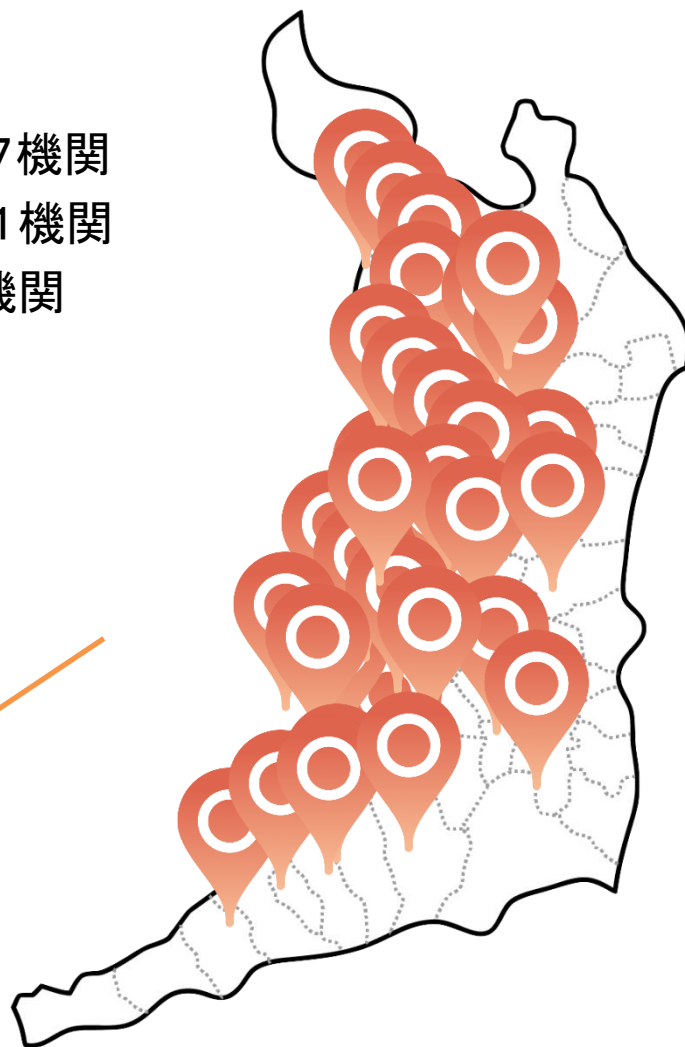


調査結果をもとに、機関支援へ取り組んでいます

コンサルタント体制（医療機関リスト）

- 大阪府下精神科医療機関リスト化
- 妊産婦メンタルヘルス支援において
 - 自院で継続診療可能精神科医科機関 207機関
 - 妊娠中精神科診療受け入れ可能機関 181機関
 - 産後精神科診療受け入れ可能機関 183機関
 - 精神科受診中妊婦健診実施機関 67機関

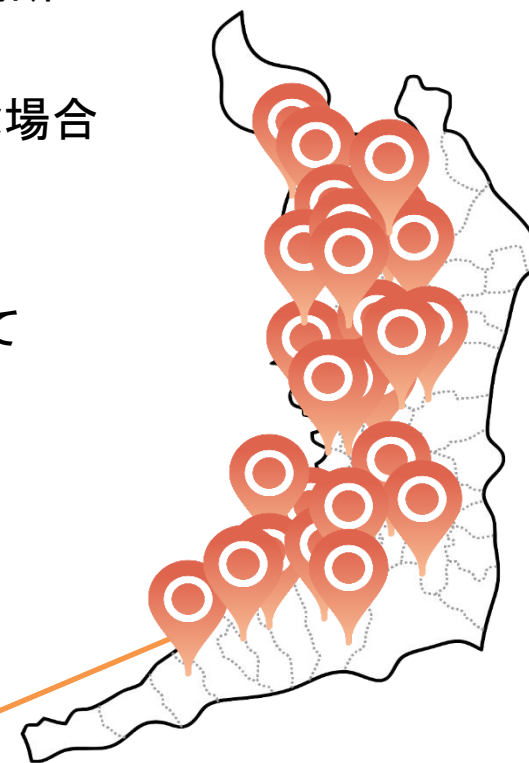
A病院	精神科
医療圏	泉州医療圏
担当	〇〇先生
連絡先	0123-456-789
コメント	火曜日外来



コンサルタント体制（相談精神科医）

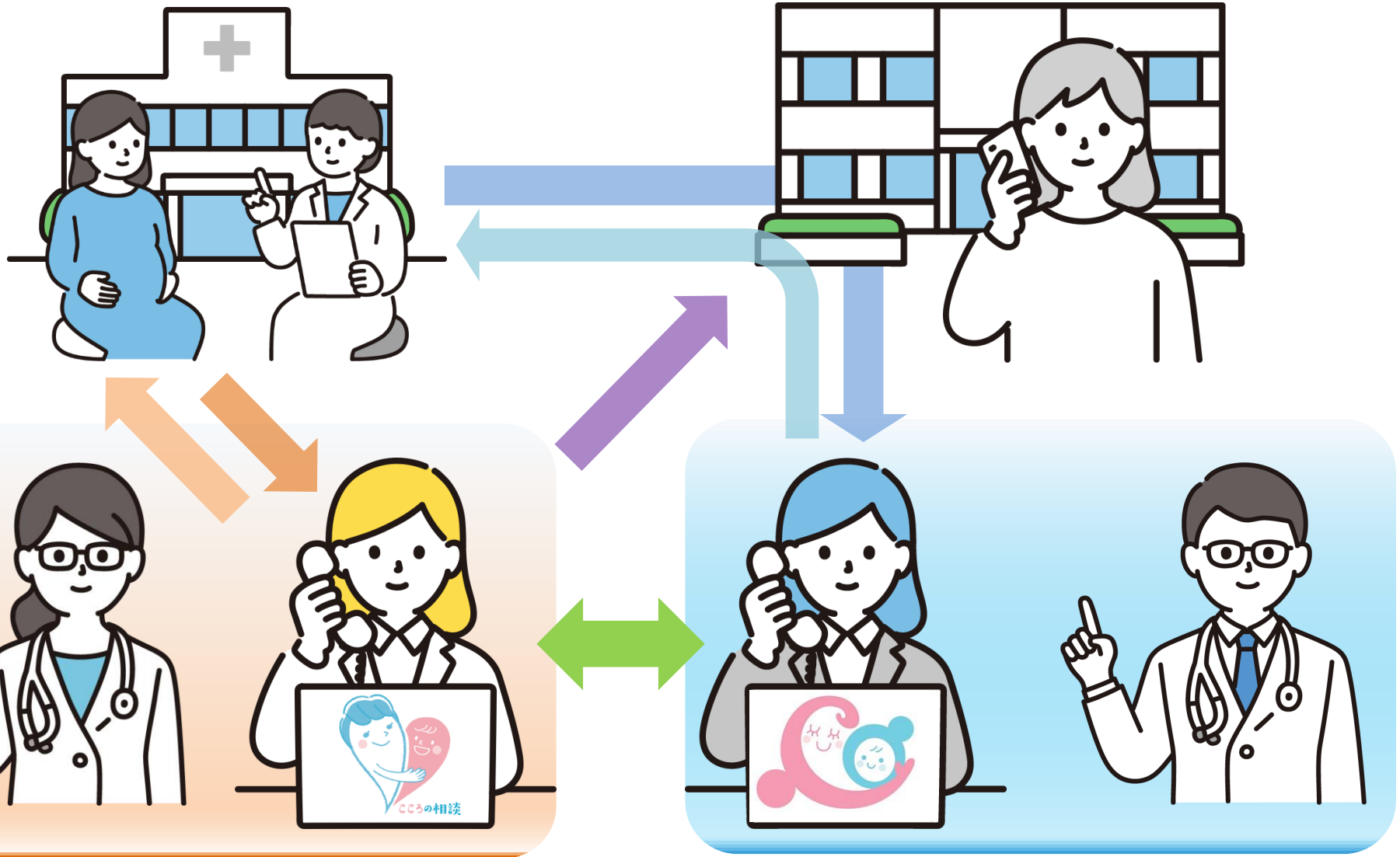
- 大阪府下で妊産婦メンタルヘルスに関する助言可能な医師をリスト化
- 妊産婦メンタルヘルス支援において
 - 機関からの相談があった場合に、コーディネーターでは判断に苦慮する場合院内の精神科医に相談
 - 地域性、内容等鑑み、地域の実情にあった助言が必要な場合地域で相談可能な精神科医に連絡し助言を得る
 - 「大阪府妊産婦こころネット登録精神科医師相談員」として26名※に登録していただき助言をしていただいている

B病院	精神科
医療圏	南河内医療圏
担当	〇〇先生
連絡先	0123-456-789
コメント	月曜日相談可能



※ 令和7年8月末現在

妊産婦を支えるネットワーク



妊産婦を支えるネットワーク



直接支援と
機関支援で

大阪府支援者向け研修会



基調講演：
妊産婦のメンタルヘルスについて

シンポジウム：
専門家による意見交換



今後の展望

連携強化

医療連携の強化

- ✓ 医療機関医療情報の収集
- ✓ 機関連携促進
- ✓ 専門的知見の共有体制構築
- ✓ 患者紹介システムの確立

格差解消

地域格差の解消

- ✓ 支援格差解消
- ✓ 地域間での基本的な妊産婦メンタルヘルス支援の均質化
- ✓ 全府的な支援体制の整備

人材育成

支援者の育成

- ✓ 支援者向け研修会の開催
- ✓ メンタルヘルスリスク評価方法の普及
- ✓ 支援のマニュアル作成

事例対応

困難事例の対応

- ✓ 重症事例対応
- ✓ 社会的背景による複雑事例の支援対応
- ✓ 虐待リスク事例への早期介入
- ✓ 多機関連携

ご清聴ありがとうございました

